

巻 頭 言

会 長 伊 東 眞

平成になって四半世紀を迎えます。平成元年、通信衛星放送が開始され、携帯型のビデオカメラやパソコン、ゲーム機が発売されました。情報通信の波が子どもや家庭まで広がった年です。以来 25 年、グローバル化と情報化が進展し、人や物、金やエネルギーに加え、いまや情報が産業や社会で、生活で一層価値の比重を大きなものにしていきます。情報が地球規模で瞬時に移動し、社会の変化の大きな要因となっています。

クラウドサービスによって、どの情報媒体からも情報を共有し受け取ることが可能となるメディア融合時代です。人間の五感や体性感覚などの情報を組み合わせ、マルチモーダル情報処理を用いてバーチャルリアルティを構築し、ナビゲーションやセンサー、GPSなども活用し、人々の生活を大きく変えつつあります。夢物語が現実となる時代です。

平成になって 10 年あまり経過した 2000 年、4 割に満たなかったインターネットの普及率は、平成を 20 年あまり経過した 2009 年、8 割に迫り、情報量は 2、3 年ごとおよそ 2 倍のスピードで大きくなっています。

総務省によれば、日本は情報基盤の整備で世界一ですが、普及は 8 位、利活用は 16 位ということです。コンピュータやインターネットを利用するための情報リテラシーが一層求められます。情報通信技術の飛躍的な変化に応じて、学習内容を変えながら常に学び続けることが求められます。

中学生がウイルスの作成に関わり、大学生がなりすましで犯罪者にされる事件も起きています。ウイルスやワームによるサーバーへの不正アクセス、情報の不正取得、ソフトウェアの改ざん、キーロガーによる情報の盗用、フィッシングによるセキュリティ情報の流出など、セキュリティの低いところ、ゆるいところから、あっという間に個人情報が出てしまうことにもなりかねません。インターネットの使い方によっては、情報に起因する犯罪にまきこまれる可能性すらあります。情報モラルやセキュリティへの対応、その指導教育が一層重要なものとなっています。情報教育の役割、本研究会の意義もますます大きいといえるでしょう。

今年度の研究発表大会は、本会創設時に指導いただいた黒田卓富山大学教授に講演いただきました。厚くお礼申し上げます。

本研究会の活動が各校での情報教育の指導にいかされ、会員の授業力、指導力がさらに向上して、本研究会の活動が一層進展することを願います。